

Saitama Line 報告号

梅雨に入り、蒸し暑い中の保育。「あぁ～！午前中だけは雨降らないでえええ！」という心の叫びは、無情にもシトシト降り続く雨にかき消され。あぁ…今日は部屋の中で何しよう…と頭を抱える日々。そんな悩みが少しでも解消できればいいな、という思いで迎えた第3回 **Saitama Line** は、造形あそびに焦点を当てて考えてみました。

☔雨の日の保育が少しでも楽しくなれるよう、この報告号をあなたへ送ります。

講師にお招きしたのはこの方！



やおいひでひと
こども環境デザイン研究所代表 **矢生秀仁**先生 です。
テーマは「“つくる”が好きになる」～のびのび造形あそびにつながる保育士の関わり～

そもそも造形って、誰が何のためにやるのでしょうか？

ほとんどの人は「子どものため」と答えます。では、子どもがすぐに「もうやらな～い！おしまい！」と席を離れたら、あなたはどうしますか？（心の声：瞬時に脳裏に浮かぶ、先輩保育士＆保護者の顔）

「ねえ、もっとやりなよ～。あ、こうしてみたらどう？」と席に引き戻されたとき、その子は何を思うのでしょうか。やりたがらない子どもの「見えないココロ」。あなたはどう捉えますか？

「本当はまだ遊んでいたかったのに…」「どうやってやるのかわからないよ」「どうやって作ろうか考えているのになんで先生は“時間なくなっちゃうよ”って急かすの？」「失敗したらどうしよう…」って。やりたくない子どもの理由は、“子どもなり”に絶対あるのです。

その気持ちに大人がピタッと寄り添えたとき。その子にとっての【造形あそび】が本当の「あそび」に変わってくるのです。子どもが「やらされている」と感じている限り、それは「あそび」ではなく「作業」です。失敗しても大丈夫。安心して失敗できる環境が、「のびのび造形あそび」につながります。大人だって失敗します。その失敗を子どもと一緒に笑い合える環境って、素敵ですね。

胸を張って「子どものため」だと言えるあそび。今回矢生先生のお話を聞いて、造形の枠を超えて、保育の中で本当に大切にしたいことを参加者が学べた講座でした。

造形に対しての考え方がすごく変わりました。毎日保育に対しても悩んでいて、今日の話は表現だけにかかわらず、全てに当てはまるなと思いつつ聞くことができました。もっと楽しんで、造形、保育をしていきたいと思えます。

～参加者の声から～

参加人数 12自治体から51名

製作は、つい見栄えだったり、他の職員目や保護者目を気にしてしまいがちなので、大事なのは子どもの「楽しい！」「ワクワク！」という気持ちなのだと改めて感じました。

「共感」が自己肯定、自信につながるという話が特に印象的でした。



保育士が「へたでいい」という言葉にとっても安心しました。下手でも楽しくやっていたら、子どもは安心し、楽しいと思ってくれるんだなと。楽しいと思う心、難しいと思う心が大切なのですね。